

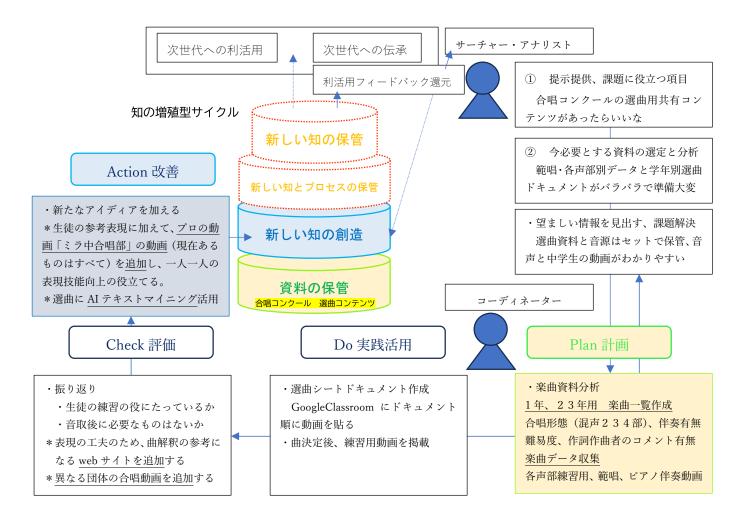
$oxed{1}$ デジタルアーカイブに関する各機関の関わり $oxed{/}$ $oxed{/}$

福岡市中学校 68 校のうち、音楽科教員はほぼ 1 校 1 名配置で、複数 $2 \sim 3$ 名配置が 10 校程度である。そのため、1 人で 3 学年と特別支援学級の 4 コースを担当している先生がほとんどである。経験が長い先生は実践データがたまっていくが、経験年数が少ない先生は、教材の作成に追われる日々である。

自分の研究成果は自分のもの、という状況から、みんなで共有する中でよりよいものを目指していく協働の体制をつくりたい。その手始めとして、令和6年に開催予定である、福岡県中学校音楽教育研究会で、県レベルでデジタルコンテンツを作成していくのはどうか、という提案をするつもりである。デジタルアーカイブのハードルであるクラウド所在をどうするか、各地区の担当窓口をどのようにするか、や著作権処理等について、事前の検討が必要とされる。

2 つなぎ役と流通保管 /メタデータ・コンテンツの活用成果の双方向流通に向けて

教育データの利活用が当たり前の状況になった時、JAPAN SEARCH をはじめとする総合ポータルは充実する。 現状では、音楽教育において JAPAN SEARCH は、まだ活用の域に至っていない。現場としては、今できること として、メタ・データ、教育データの標準化への対応を意識して、利活用を目的としたデジタルコンテンツの作 成を行っていきたいと考えている。 /活用の企画運用推進担当 (coodinator) は授業者一人一人



【共有コンテンツ作成を例としたプロセスについての説明】

(1) 課題によるデジタルアーカイブによる知的処理

年間指導計画 35 時間のうち、1 年間の中で 3 学年とも 8 時間程度指導する合唱曲のコンテンツをつくることにした。現在、CD から音源を抜き、生徒の実態に合わせてその年の選曲リストを作成していた作業自体が大変だったこと、ほぼ市内の教員が同じ作業をしているにもかかわらず、共有データがないこと、新曲が発売される毎に楽譜・音源、リストを作り直していること、一斉授業で紹介していたため、欠席や登校していない生徒への対応が十分でなかったこと、などから、生徒用タブレットでの選曲と学習活動に対応するデジタルコンテンツを作成することが課題として挙げられる。一旦コンテンツを作成してしまえば、次年度からは新曲追加と再リストの作成だけでよく、音声や動画をいちいち準備しなくてよくなり、働き方改革につながる。また、それぞれ生徒のペースで学習を進めることができる、などの利点がある。著作権についても、GoogleClassroomでリンク可能(教育委員会の許可範囲内)なため、確認作業が不要である。

- (2) 処理プロセスの説明
- ①課題に関連する項目を見出す
 - ・選曲リストに挙げた曲のデータ web 検索
 - ・データが揃っているかどうか、ない場合の掲載はどうするか
- ②過去の資料から、現状に望ましい情報を見出す
 - ・今年の学校生徒の表現技能や心情にあった関連資料を抽出しリンク

- ③使いやすい資料を作成
 - ・分析結果を共有できるよう、書き込み・生徒共有可能な Google ドキュメントに変換
 - ・メタ・データへの対応、教育データの標準化(学習指導要領)への対応
- ④実践での活用
 - ・実際に生徒が使ってみての、使い勝手や不要だった資料等の確認
- ⑤実践結果の評価と改善、新たな創造
 - ・実践プロセスの(説明)手引作成、生徒からの声(生徒が自身で追加した資料や効果があったデータ)収集
- ⑥改善資料や創造、各項目の処理プロセス保管
 - ・今年の生徒の表現動画を追加保管
 - ・生徒から次年度生徒へのアドバイス

【課題】

- ○自身の専門分野教育では、サーチャー・アナリスト、コーディネーターとも同一教員が担当することが多い。 だからこそ、一人の力ではデータが広がらないし、ひとりよがりのものになってしまったり、自分だけの所有 物になってしまったりしがちである。
- ○現状、サーチャー・アナリスト、コーディネーターとも同一教員が担当することで、明確な管理者が不在で、 授業者がどんどん作成していくデジタルコンテンツになると、教材・コンテンツの価値や有用性の吟味が曖昧 になる。

以上、詳細に関する計画が十分立っていないものの、令和6年度に、実際に福岡県中学校音楽教育研究会のデジタルアーカイブをつくる提案をし、利活用する基盤をつくっていきたいと考えている。